

## 令和6年度第4回 感染症発生動向調査協議会

令和6年7月17日

月番：大西 秀典

### 1 前月の感染症発生動向について（2024年第23週～26週・6月）

#### <全数把握対象疾患>

- ・ 一類感染症については、発生報告は無い。
- ・ 二類感染症については、結核は今月の報告数は28例で、2019年の同期累計報告数183例、前年の同期累計報告数121例、本年の累計報告数が150例となっておりCOVID-19流行後に減少していた発生数が反転し、増加傾向となっている。年齢別発生数は二峰性で20代を中心とした若年層と70歳以上の高齢者層が多い。
- ・ 三類感染症については、腸管出血性大腸菌感染症が5例の発生報告があり、O157が4例、その他が1例であった。
- ・ 四類感染症については、A型肝炎が1例、レジオネラ症が3例報告されている。
- ・ 五類感染症(性感染症以外)については、急性脳炎が1例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症が2例、侵襲性インフルエンザ菌感染症が3例、侵襲性肺炎球菌感染症が4例(うち1例は4回ワクチン接種後の幼児例)、百日咳が2例(うち1例は4回ワクチン接種後の幼児例)報告されている。

#### <定点把握対象疾患>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は15.1となっておりまだまだ発生数が多い。夏場にかけて昨年同様流行拡大の兆しがみられるので注意が必要である。
- ・ インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.2となり発生が散見されるものの流行は収束している。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5.2となっており流行が続いている。特に岐阜圏域と中濃圏域での発生多く地域差がみられる。
- ・ 咽頭結膜熱は県全体で75例の発生があり、前月比121.8%と若干増加傾向である。
- ・ A群溶血性連鎖球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は12.9と流行が続いている。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は11.1、前月比119.5%と若干増加傾向である。
- ・ 手足口病の定点当たり患者報告数は29.0、前月比937.8%と急激に増加傾向である。
- ・ ヘルパンギーナの定点当たり患者報告数は3.2、前月比817.3%と手足口病ほどではないが急激に増加傾向である。
- ・ 基幹定点疾患ではマイコプラズマ肺炎定点当たり患者報告数が2.4、前月比214.3%と増加しつつある。

### 2 検討すべき課題

- ・ 手足口病の流行について

#### <事務局から>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の夏期流行について

### 3 その他（感染症対策推進課から）

（国通知・事務連絡）

- ・ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症（STSS）について（周知）
- ・ ダニ媒介感染症に係る注意喚起について
- ・ 組換え沈降B型肝炎ワクチン（酵母由来）「ビームゲン注」の限定出荷の解除について
- ・ 医療関係職種等の各養成所・養成施設等におけるHPVワクチンのキャッチアップ接種に係る周知について（依頼）

（県公表資料）

- ・ 手足口病の流行が拡大しています
- ・ 事業所での腸管出血性大腸菌感染症の発生報告について

---

<検討結果>